

平成28年熊本地震の発生に伴う井戸水の濁り対策

平成28年6月9日
熊本県農業革新支援センター

4月14日から発生した平成28年熊本地震により、地下水の水量や水質に変化が認められている（平成28年4月20日付け農業革新支援センター情報第9号）が、かん水用の井戸水が砂で濁る事例が県内の広い範囲において確認されている。この原因は、地下の水みちの変化あるいは井戸内への土砂混入によるものだと考えられる。サンドフィルターがすぐに目詰まりしてかん水に支障を来す（下写真）ため、以下の対策を講じる。

（対策1）

しばらく日数をかけて大量の水を出すことによって、元の澄んだ水に戻る事例がある。その期間は10～14日間を一つの目安とする。

（対策2）

別途貯水タンクを用意して、砂を沈殿させ、上澄みを利用する。かん水に砂が混入しないように管の配置等を工夫する。大きな貯水容量を要する場合、コンパネを組んで貯水槽を自作する方法もある（添付：農業研究センター生産環境研究所の雨水貯水槽組立手順書を参考とする）。

以上の対策によって濁りを除くことが不可能である場合、あるいは濁りの成分が砂でなく鉄分である場合も除くことが難しいため、新たな井戸を掘削するなど、別途水源を確保する。

なお、情報第9号のとおり、海岸に近い地域や阿蘇谷では地下水のECが高くなる場合があるので、分析により確認すること。



写真 井戸施設に詰まった砂